



大塚敬節  
矢数道明  
責任編集

近世漢方医学書集成

42

多紀元簡

名著出版  
刊



南京中医药大学图书馆版权所有

近世漢方医学書集成 42

多紀元簡(二)

第II卷

昭和五十五年七月二十五日 発行

編者 大塚敬道 明節

発行者 中村安孝

発行所

会社 東京都文京区小石川三ノ十ノ五  
電話東京(八一五)一二七〇番代  
振替口座 東京七一一〇番五四

製版所

会社 東京都文京区小石川三ノ十ノ五  
電話東京(八一五)一二七〇番代  
振替口座 東京七一一〇番五四

印刷所

会社 東京都文京区小石川三ノ十ノ五  
電話東京(八一五)一二七〇番代  
振替口座 東京七一一〇番五四

製本所

会社 東京都文京区小石川三ノ十ノ五  
電話東京(八一五)一二七〇番代  
振替口座 東京七一一〇番五四

日本写真製版社

有限

会社

東京

文京

区

小石川

三ノ

十ノ

五

番代

五四

番

五四

</div

責任編集

矢数 大塚 敬  
矢数 道明 節

編集委員

松田 大塚 寺山  
矢数 師田  
邦圭 恭睦光胤  
夫堂 男宗明節

## 凡 例

一、本書第四十二卷「多紀元簡(二)」には、『傷寒論輯義』卷三～卷七を収録した。

一、本書は全て影印版によつて収録したが、影印にあたつては次のようにした。

イ、新たに柱と頁数を付した。

ロ、底本を縮小し、一頁に半丁ずつ収めた。

ハ、裏表紙や記事のない白紙は省略した。

ニ、底本にある藏書印及び書き込み等は、全てそのままにした。

ホ、底本に添付された付箋は、最後にまとめて収録した。

ヘ、印刷不明な箇所は、他の版本等により補正したところもある。

一、底本は次の通りである。

傷寒論輯義 版本（文政五年版） 七卷十冊（大塚敬節所蔵）

一、本書収録書目の解題については、第四十一卷「多紀元簡(一)」に記した。

多紀元簡  
二

目 次

凡 例

傷寒論輯義

三

卷三

弁太陽病脈證并治下

三

卷四

弁陽明病脈證并治

八三

弁少陽病脈證并治

一五

卷五

弁太陰病脈證并治

三三

弁少陰病脈證并治

三五

卷六

弁厥陰病脈證并治

四一

卷七

五三

弁霍亂病脈證并治

卷三

弁陰陽易差後勞復病脈證并治

卷七

跋

六一

付箋

六二

六五

傷寒論輯義

卷三—卷七





眞易  
寒論輯義

五

或問仲淳治傷寒有祕法乎仲淳云熟讀仲景書即秘法也

居筆記

傷寒論輯義卷三

東都

丹波元簡廉大

學

大



清月樓

辨太陽病脉證并治下

(付箋54)

問曰。病有結胸。有藏結。其狀何如。答曰。按之痛。寸脉浮。關脉沈。名曰結胸也。何謂藏結。答曰。如結胸狀。飲食如故。時時下利。寸脉浮。關脉小細沈緊。名曰藏結。舌上白苔滑者難治。王

作其脉寸口浮關上自沈時時下利云云作時小便不利。陽脉浮關上細沈而緊。張錫駒本胎作苦。

汪此言結胸病狀與藏結雖相似而各別。夫結胸藏結何以云太陽病。以二者皆太陽病誤下所致也。蓋結胸病始

因誤下而傷其上焦之陽。陽氣既傷。則風寒之邪乘虛而

吳本削飲食如故。時時下利八字。神巧萬全方。作舌上白若苔滑者。

柯氏曰。結胸之脈沈緊者可浮大者不可下。此言其平耳。口結胸狀而非結胸者。結胸則不能食。不下利舌上燥而渴。尤氏曰。此設為問答以辨結胸。藏之異。結胸者邪結胸中。按之則痛。藏結者邪藏於間。被之亦痛。告胸者謂如結胸也。按而痛也。然胸高而所處之位則不同。是以結胸不能食。藏結則飲食如故。而所處之位則不同。是以結胸不當留陽而藏陰。病狀雖同。而所處之位則不同。是以結胸

入上結於胸。按之則痛者。胸中實也。寸浮關沈者。邪氣相結而爲實之診也。若藏結病則不然。其始亦因誤下而傷其中焦之陰。陰血既傷。則風寒之邪亦乘虛而入。內結於藏。狀如結胸者。以藏氣不平。逆於心下故也。飲食如故者。胸無邪阻。而胃中空也。時時下利者。藏虛邪結。不能運化。胃中之水穀。不泌別。不分清。因偏滲於大腸。而作利也。寸浮關沈者。結胸脉也。今診關脉。兼得小細緊者。則是藏虛。冒不必下利。藏結則時下利。結胃關脉沉藏結則裏細緊。而其病之症表入裏。無表。猶未盡之故。則又無不同。故結胸藏結其寸脉俱浮而舌上白胎滑者。在東之陽不振。而藏虛又不可攻。故曰難治。

太早則食不能去。外邪反入。結於胸中。以故按之則痛。不能飲食。藏結證。其人胃中本無食。下之太過。則藏虛邪入。冷積於腸。所以狀如結胸。按之不痛。能飲食。時下利。舌上胎滑。此非真寒證。乃過下之誤也。魏人知仲景辨結胸非藏結爲論。不知仲景正謂藏結與痞有相類。而與結胸實不同耳。蓋結胸者。陽邪也。痞與藏結陰邪也。痞則尚有陽浮於上。藏結則上下俱無陽。獨陰矣。陰氣內滿。四逆湯證之對也。

金鑑曰。案此條舌上白胎滑者難治句。前人舊注皆單指藏結而言。未見明晰。悞人不少。蓋舌胎白滑卽結胸

證具亦是假實。舌胎乾黃。雖藏結證具。每伏真熱。藏結陰邪。白滑爲順。尚可溫散。結胸陽邪。見此爲逆。不堪攻下。故爲難治。由此可知著書立論。必須躬親體驗。真知灼見。方有濟於用。若徒就紙上陳言。牽強附會。又何異湊音梅福傳案圖索驥耶。○案金鑑此說未知於經旨如何。然係于實驗。故附于此。

案汪注。結胸傷上焦之陽氣。藏結傷中焦之陰氣。於理未允。

案胎錫駒作苔。原于龐氏總病論。知是胎本苔字。从肉作胎。與胚胎之胎義自別。又聖惠方載本經文。亦並作

苦。

藏結無陽證不往來寒熱

原注一云  
寒而不熱

其人反靜舌上胎滑者。

不可攻也。

不往來寒熱脉經作寒而不熱胎滑。  
巢原作不胎。龐氏胎作苦。錫駒同。

柯

結胸是陽邪下陷尚有陽症見于外故脉雖沈緊有可

下之理。藏結是積漸凝結而爲陰五藏之陽已竭也外無  
煩躁潮熱之陽舌無黃黑芒刺之胎雖有硬滿之症慎不  
可攻理中四逆輩溫之尚有可生之義。

案藏結補亡論王朝奉刺關元穴非也汪氏云宜用艾  
灸之鹽要曰灸氣海關元穴宜人參三白湯加乾薑寒  
甚者加附子全生集曰灸關元與茱萸四逆加附子湯。